

**製品名: CD137L ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08207**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	23kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TNFSF9
別名	TNFSF9; Tumor necrosis factor ligand superfamily member 9; 4-1BB ligand; 4-1BBL
遺伝子 ID	8744.0
SwissProt ID	P41273
免疫原	抗血清はヒト TNFSF9 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 31-80

**背景**

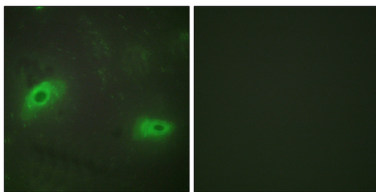
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、腫瘍壊死因子 (TNF) リガンドファミリーに属するサイトカインです。この膜貫通型サイトカインは、Tリンパ球の共刺激受容体分子である TNFRSF9/4-1BB のリガンドとして機能する双方向シグナル伝達物質です。こ

のサイトカインとその受容体は、抗原提示プロセスと細胞傷害性 T 細胞の生成に関与しています。受容体 TNFRSF9/4-1BB は休止期 T リンパ球には存在しませんが、抗原刺激によって急速に発現します。この遺伝子によってコードされるリガンド TNFSF9/4-1BBL は、T リンパ球の増殖を促進するだけでなく、アネルギー性 T リンパ球を再活性化することが示されている。このサイトカインは、CD8 T 細胞における最適な CD8 応答に必要なことも示されている。このサイトカインは癌細胞株で発現しており、T 細胞と腫瘍細胞の相互作用に関与していると考えられています。[提供 b 機能: TNFRSF9 に結合するサイトカイン。活性化末梢血 T 細胞の増殖を誘導する。活性化誘導性細胞死 (AICD) に関与する可能性がある。T 細胞と B 細胞 / マクロファージ間の相同相互作用にも関与する可能性がある。]類似性: 腫瘍壊死因子ファミリーに属する。]サブユニット: ホモ三量体。]組織特異性: 脳、胎盤、肺、骨格筋、腎臓で発現する。]

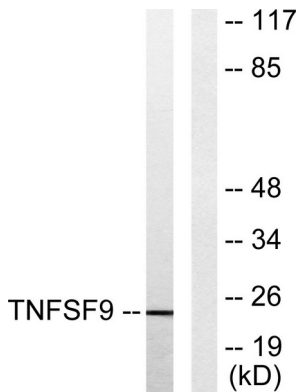
## 研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;

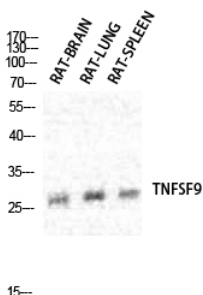
## 画像データ



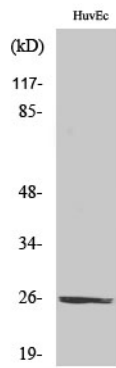
TNFSF9 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



TNFSF9 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CD137L ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



CD137L ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた HuvEc 細胞のウェスタンブロット解析